



7日にシンガポールで開かれる
初の中台首脳会談の背景と中台関
係への影響について、東大東洋文
化研究所の松田康博教授（中台関
係論、空知管内由仁町出身）に聞
いた。

（聞き手・東京報道 佐々木学）

◇
会談実現は、来年1月の台湾総
統選に対する中国の露骨な介入と
言える。

総統選で与党・国民党は党内の
路線対立のため劣勢に立たされて
いる。総統選候補を不人気の洪秀
柱氏から党主席の朱立倫氏に差し
替えても、野党・民主進歩党（民

東大東洋文化研究所 松田康博教授

進党）候補の蔡英文主席に大きく
水をあけられている。

習氏は、中国と台湾は「一つの
中国」であるという認識を共有す
る国民党の支持率を少しでも上げ
ようと、馬氏との会談を決めた。

習氏の決断で会談が実現すること
も、中国は台湾を制御できること
を国内に示し、習氏の権威を高め

こうした問いに、蔡氏が総統にな
れば答えなければならない。

もっとも、台湾の現状維持を望
み、馬氏の対中接近を危ぶむ人々
には会談実現への反発もある。国
民党が支持を伸ばす上で逆効果と
なる可能性もある。

会談で習氏と馬氏は、中台が1
992年、互いに「一つの中国」

中国、総統選の介入狙う

ることにつながる。馬氏にとって
は総統退任を控え、歴史に名を残
す遺産となる。

民進党の蔡氏には圧力となる。

会談は中台が対立から和解へ向か
う良いイメージを伴う。会談が実
現するのは「一つの中国」を認め
る国民党の総統だからで、独立志
向の民進党では不可能だろう、と。

を認めた「92年合意」が中台の平
和的發展の基礎であることを確認
することにとどめ、統一には触れ
ないだろう。もし将来の統一を話
し合えば、民進党が「国民党は台
湾を中国に売り飛ばす」と宣伝す
ることになり、国民党に不利とな
るからだ。